

冬の厳しい寒さに耐えて咲いた本校の桜の花は、先週末頃が満開の見ごろでしたが、現在も辛抱強く残っている花びらは、新入生の皆さんをお迎えするため、この日を心待ちにしていました。また、校内の庭木や間近に仰ぎ見る城山の姿にも、瑞々しい春の息吹を感じる今日の佳き日に、御来賓並びに保護者の皆様方の御臨席を賜り、令和4年度の入学式を厳かな雰囲気の中、このように挙行できますことは、在校生並びに教職員一同の大きな喜びであり、心よりお礼を申し上げます。

ただ今入学を許可しました360名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。希望と期待に満ちた皆さんを迎えることができましたことを、教職員一同、大変嬉しく思いますとともに、皆さんの無限に広がる可能性や今日から皆さんと共に歩む学校生活に大きな期待を寄せています。

また、保護者の皆様におかれましては、本日、お子様の晴れの姿をご覧になり、大きな喜びと頼もしさを感じておられることと存じます。これまで、お子様の成長を深い愛情と厳しさをもって、見守り、支えてこられましたことに、深く敬意を表しますとともに、皆様をお迎えして令和4年度がスタートできますことを、在校生・教職員を代表いたしまして、心から歓迎いたします。

さて、本校は明治33年の北予中学校として創立されて以来、今年で創立122年目を迎える伝統校であり、巣立っていかれた卒業生は、4万人を超え、県内はもとより全国各地の様々な分野で活躍し大きな功績を残され、母校の名を高めておられます。また、約10年前には、小説「坂の上の雲」がドラマ化され、松山出身の秋山好古や、正岡子規、弟の真之をはじめとする若者たちが、激動の明治時代を大きな志と使命感を持って前向きに生きた物語として放映されました。登場人物の一人で、本校の前身北予中学校第4代校長であった秋山好古先生のお人柄とともに、先生にゆかりのある松山北高校の存在が大きく脚光を浴びたことは、本校の誇りであります。諸先輩の皆様方の活躍や本校の歴史を紐解く度に、身が引き締まる思いを抱くとともに、伝統校としての風格を感じています。

新入生の皆さんが体験したとおり、今回の高校入試において本校は大変厳しい志願倍率となりましたが、皆さんの努力が実り、難関を見事に突破して本校に入学して学ぶことに、自信と誇りを持ってほしいと思います。

本校創立以来、長く受け継がれてきた校風は、「質実剛健」と「清楚」であり、この校風を実践し、伝統ある真の松山北高校生にこれから成長するために、校訓「文・武・心」を紹介します。この文字に込められた思いは、より高いレベルの大学進学を目指す勉強、県のトップレベルで活躍し、全国大会でも上位入賞を目指す部活動、感謝や思いやりなど心の成長を目指す学校生活など、文武両道に、「心（こころ）」を加えて、三道三立という三つの分野にわたる目標を実現することにあります。

「文」では、本校を3月に卒業した先輩たちは、356人のうち、大学に進学する生徒は322名、その中で国立、公立大学に進学する生徒は237名でした。

「武」では、部活動においては、陸上競技部が7年連続で全国入賞し、過去には、日本高校新記録を樹立した選手も育ちました。全国の高校生の中で最も多くの学校が参加し、注目度の高いサッカーでは、平成20年以降、4度も全国高校サッカー選手権に出場してい

ます。これらの活動は、ほんの一握りの紹介であり、運動部、文化部に限らず、ほとんどの部活動が、全国大会で活躍しようと高い目標を掲げて懸命に活動し、挑戦し続けています。

そして「心」では、ボランティア活動や地域に貢献できる活動にも熱心に取り組み、高い志をもって様々な体験活動にも積極的に参加しながら奉仕の心を磨き、学校生活においても挨拶を励行し、感謝の気持ちや謙虚さを身につけながら、社会貢献できる人材を目指しています。

皆さんは、えひめジョブチャレンジという職業体験の活動の中で「君たちはどう生きるか」について考えたと思います。古代中国に孔子という日本人にも影響を与えた思想家が、自らの人生を語った中に、志すに学ぶと書く「志学の年」という年齢があります。孔子が自らの人生を振り返って、15歳の時に学問で身を立てようと決心した年齢の呼び方です。ほとんどの皆さんと同じ年齢の時に、孔子は自己実現したい具体的なことが見つかったと語っています。皆さんも今、将来の夢や希望を抱いて心に秘めたものがあると思いますが、その将来像を確かなものにするため、将来「どう生きるか」を決断する「志学の年」が高校生活の3年間に刻まれることを願っています。

先日の愛媛新聞で俳人神野紗季さんが、正岡子規の「故郷や どちらを見ても 山笑う」の句について、春の季語「山笑う」の表現も踏まえて解説されていました。子規が大学を中退し、物書きに専念すると決断し、松山をぐるっと見回すと、どの山もにっこり親しい。大きな決断を大らかに抱きとめる故郷への信頼があふれた句、と紹介されていました。本校に置き換えると、松山城の雄姿が見える南側の勝山、北側には御幸寺山を仰ぐことができるこの城北の学び舎である松山北高校は、春には、南と北の方角で「山笑う」自然に囲まれた中で、新しい年度の4月をスタートすることができます。皆さんにとって本校から眺めるこの景色が心の故郷として思い出の場所になるよう温かい高校生活を願っています。

結びに、保護者の皆様が大切に育てられ、将来性豊かなお子様を本日より本校にお預けいただきまして、改めて感謝申し上げます。お子様は、本校生徒の努力目標「心躍る学び合い、一朵の雲を目指して」の下、校訓「文・武・心」を実践し、人間力の向上を目指しながら、生徒一人一人が、自立への道を一步一步踏み出すことができるよう、教職員一同、精一杯力を注いでまいりますので、改めて本校の教育活動に対しまして、一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和四年四月八日

愛媛県立松山北高等学校長 友澤 義弘